

SS2009 形式手法ワーキンググループポジションペーパー

株式会社 NTT データ システム科学研究所 山本修一郎

これからはソフトウェア・サービスを利用することが増えていくと考えられる。この場合、サービスごとに異なるレベルのセキュリティが求められると同時にサービス間で機密保護すべきセキュリティ・アセットが緩衝しないように保護する必要がある。同様にサービスを利用するユーザのセキュリティアセットについても機密保護すべきである。

したがって、サービス運用管理システムでは、サービスやユーザごとにセキュリティレベルを制御して相互に機密情報を保護するしくみとして、次の図に示すようなサービスアセット・セキュリティ管理システムが必要になる。

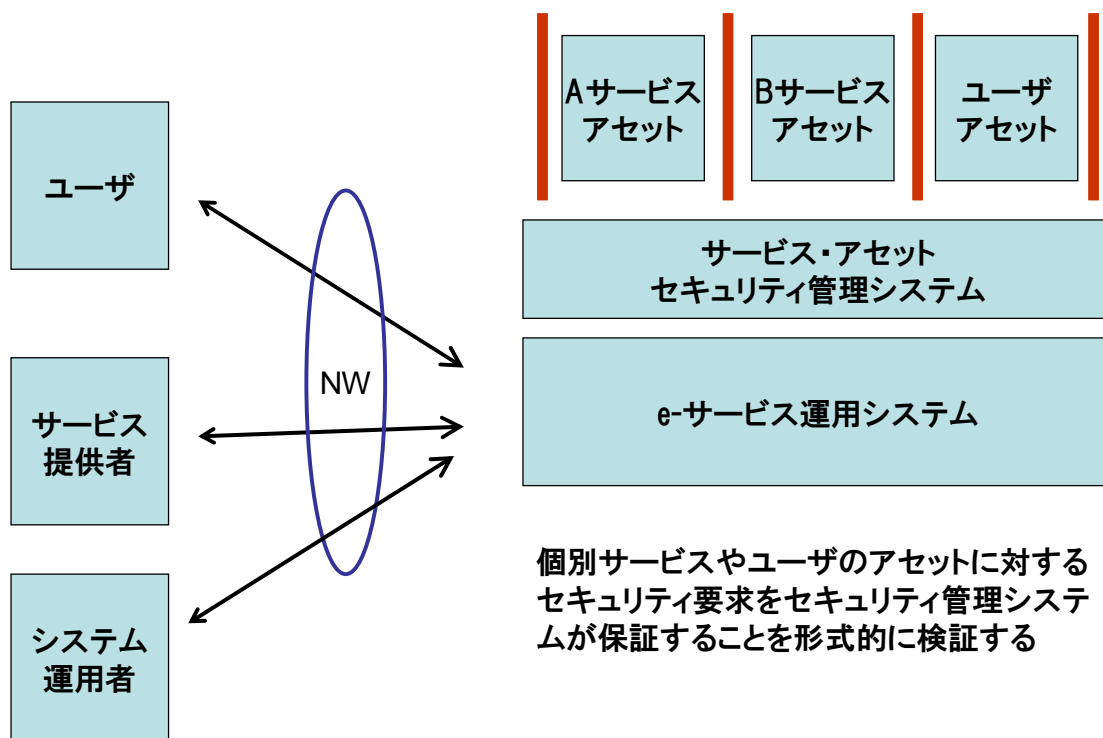


図 サービスアセット・セキュリティ管理システム

今回のシンポジウムでは、このようなサービスアセット・セキュリティ管理システムが必要なセキュリティ要求を満足していることを形式的に検証する方法について議論したい。